

先輩社員に聞く電気工事の魅力



相手が知りたい情報を
把握することの重要性

長本 彪威

牧野電設株式会社
工事部

2011年3月卒業 同年4月入社

出身校 日本大学生産工学部・電気電子工学科

――どのような形で就職活動を進めたのでしょうか？

長本 大学では施工管理に関する勉強をしていたこともあり、職種は現場代理人と決めていました。就職指導課の担当に希望を伝え、いろいろと相談をしながら数社の企業をピックアップしました。その後、設備関連というくくりで業界を絞り込み、ゼネコンを含めたさまざまな会社の説明会に参加しました。しかし卒業準備に追われ、限られた時間の中で就職活動を行わなければならない、希望業種を一本に絞る必要性を感じていたため、電気電子工学科で学んだ知識を活かせる業種に集中して就職活動を進めていこうと決めました。

――牧野電設に入社した動機を教えてください。

長本 牧野社長の人柄です。会社説明会と面接、それぞれで感じることができました。両方を牧野社長が担当されていたのですが、他社とは少し違った雰囲気で行われました。質問をした際に、返答の内容が他社とはまったく違って印象的です。業務内容も形式的に読み上げるような説明ではなく、学生の私たちでも理解できるように分かり易く工夫されていました。疑問に思っていたことが解決できたこともあって、大きな安心感を覚えました。

――現在はどのような仕事を担当されていますか？

長本 大型の新築マンションで現場代理人をしています。今の現場は規模が大きいので、各担当に分かれて、情報を交換しながら仕事を進めています。自身が担当する工区で、電工さんに対する作業指示や図面作成、資材発注など、現場運営に必要な業務の一通りに携わっています。

――現在のような大型物件を担当する前には、どのような物件を担当されてきましたか？

長本 入社数ヶ月で、小規模物件を一つ任されました。

もちろん先輩がフォローしてくれるのですが、担当者として全てを一人で進めていきました。作業を進めていく中で、分からないことも出てきますが、自分で一生懸命考え、それでも分からなければ、先輩に聞くように心掛けていました。その方がより早い成長を見込めると思ったからです。

――現場代理人はコミュニケーション能力が重要になるわけですが、苦手意識を持っている学生もいます。コミュニケーション能力に対して不安は感じましたか？

長本 現場の方たちは、親身になって色々教えてくれますので、そういった意味でのコミュニケーションに苦労した記憶はありません。しかし「仕事の指示を出す」という意味では、意思疎通の仕方に苦労しました。例えば、仕事の内容は分かっているけど、伝える技術が未熟であるために、上手く伝わらないということがありました。そこで意識したことは、工事に必要な情報を可能な限り図面に盛り込む等、「仕事の可視化を図る」ということでした。そのためには、電工さんが必要としている情報を集めなくてはなりません。積極的なコミュニケーションを図ることで自分の元に情報が集まるように信頼されることが重要であると感じています。

――仕事をしているなかで、どのような時にやりがいを感じますか？

長本 工事は非常に長期にわたって行われるので、そこではさまざまな立場の人と打ち合わせを行います。そうやって作成された工程表を元に、必要な人員の配置を計画し、資材の手配などを考える訳ですが、それらの工事がイメージ通りに進んで行くと、とても楽しいですし、やり甲斐を感じます。これが現場代理人の醍醐味の一つでもあるので、こうした感覚を常に味わえるようにこれからもがんばっていきたいですね。